



# 南町小だより

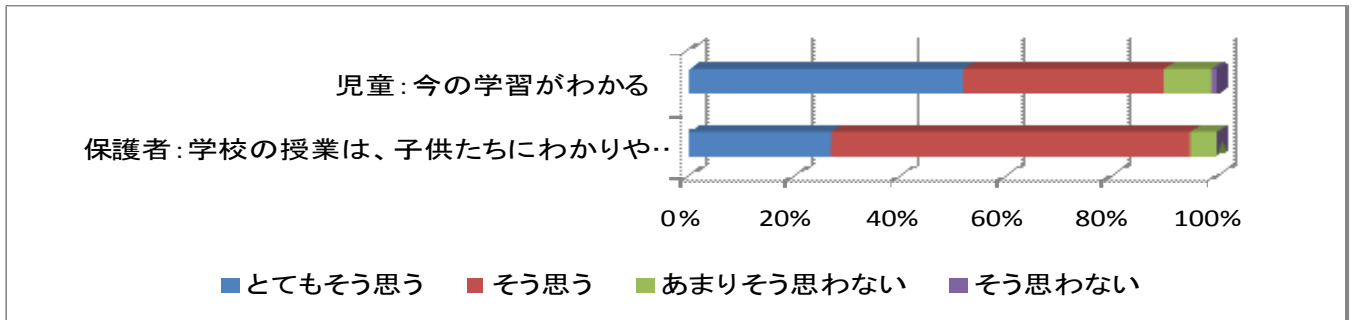
つよく かしく あたたかく

平成30年 1月31日

校長 福田 俊彦

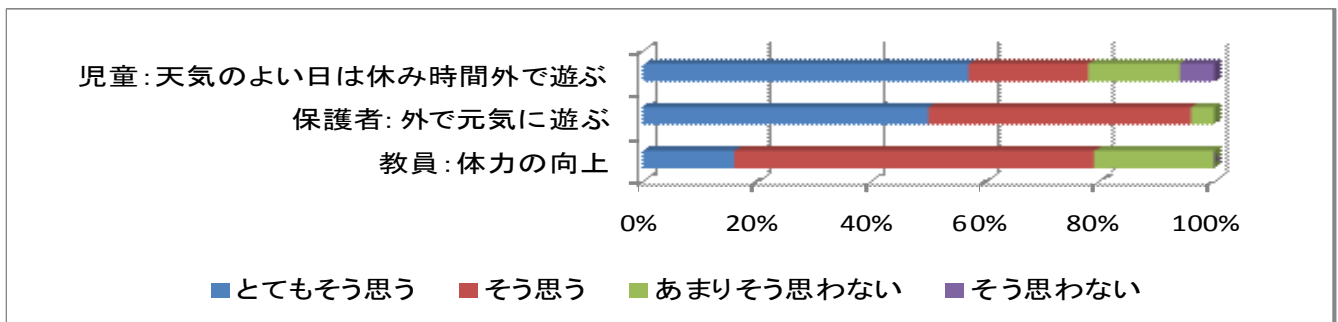
## 平成29年度 学校評価のまとめ

### <学習について>



保護者アンケートの「子供たちにわかりやすい授業となっていますか」という問いに「とてもそう思う・そう思う」の割合が95%、児童の「授業がわかる」という問いに「とてもそう思う・そう思う」と答えた割合が90%と昨年とほぼ同様の結果となりました。学校では、今年度も「ねらいを明確にもち児童に示す授業」「1単位時間の展開がわかる板書とノート指導」「児童が戸惑わない発問の工夫」「振り返りをポイントとした授業」を重点にして授業改善を進めてきました。来年度は、平成32年度より全面実施となる新学習指導要領による指導の移行期間となります。児童にとって「わかる」「できる」授業を目指し、さらに主体的な学び、対話的な学び、そして深い学びへと繋がるように授業改善をさらに進めて参ります。

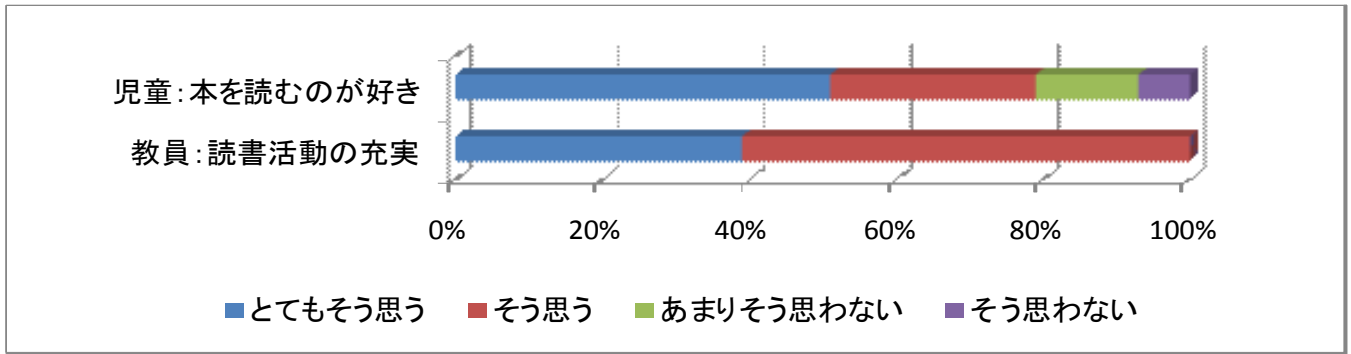
### <体力の向上>



「外で元気に遊ぶ」という質問に「とてもそう思う・そう思う」と答えた保護者は昨年度より2ポイント上がり96%、児童の「天気のよい日は休み時間外で遊ぶ」は1ポイント下がり78%、教員の体力向上の意識は1ポイント上がり79%となりました。体育の授業を工夫したり、「持久走カード」「なわとびカード」を活用して、全校で休み時間に運動する時間を多くしてきたりしたことによるものと思われます。しかし、体力テストの結果を見ると走力に課題が見られます。授業で走る運動を多くしたり、「なわとび週間」や「持久走週間」等全校で運動する活動をさらに充実させたりすることで体力向上に努めて参ります。

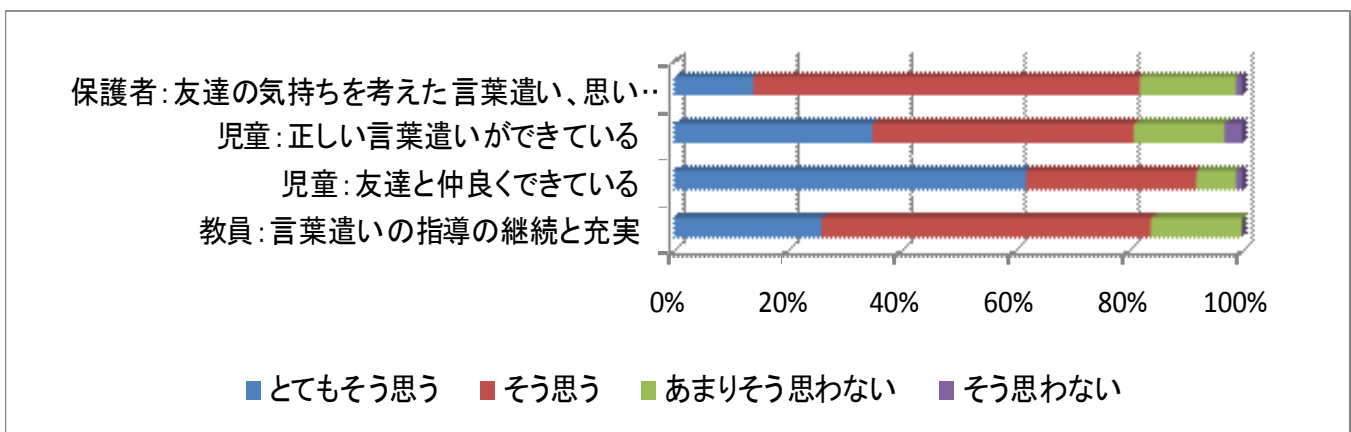
また、今年度から学期に1回足育週間を設け、校長講話や校内掲示物、各学級での活動等により足元から自己の健康について見直す活動に取り組んできました。来年度はさらに活動を工夫し、第二の心臓とも言われる足から自分の体に気付き、健康な生き方について学ぶ力を育てていきたいと考えます。さらに、児童が体を動かすもとになる体作りのためには睡眠や栄養が欠かせません。「早起き・早寝・朝ご飯」の習慣作りにご家庭でも取り組んでほしいと思います。

## <読書活動>



「本を読むのが好き。」との質問に「とてもそう思う・そう思う」と答えた児童は79%、教員の読書活動への取組の意識は肯定的な意見が100%と高い結果となっています。今年度も引き続き朝読書を週2回実施し、2週間の読書旬間に合わせて実施した「お話会」（低学年）や「本の探検ラリー」（中学年）、「ブックトーク」（高学年）も児童に定着してきました。このことが児童の読書に対する興味・関心を高めるきっかけになっています。さらに、今年度は、学校図書館管理員や学校図書館開放指導員の方々にご協力いただき、図書室の環境整備に力を入れるとともに図書委員会の児童によるパネルシアターも実施しました。今後は図書委員会の活動を充実させていく他に保護者の方々による読み聞かせ等も計画し、読書活動の充実にさらに力を入れていきます。

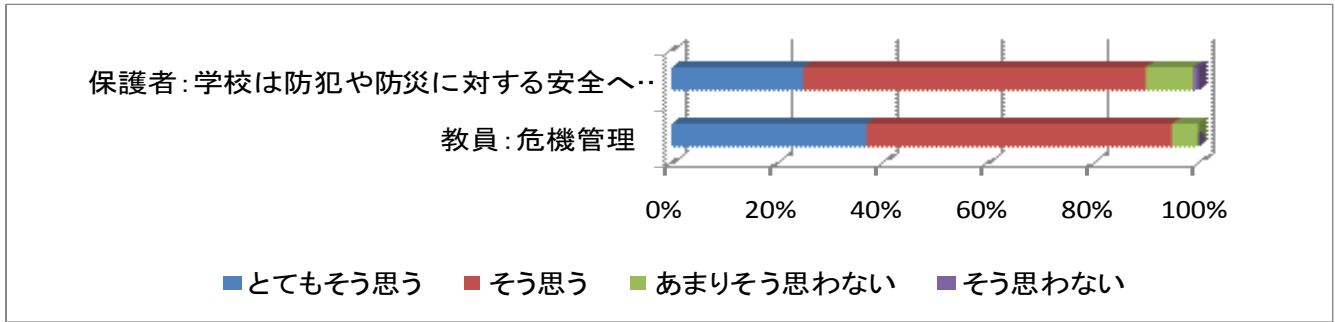
## <豊かな心の育成(挨拶・言葉遣い)>



保護者アンケートで「友達の気持ちを考えた言葉遣い、思いやり等ができる」の質問に「とてもそう思う・そう思う」の回答が82%、児童へのアンケートで「正しい言葉遣いができている」の質問に「とてもそう思う・そう思う」の回答が81%、教員へのアンケートで「言葉遣いの指導の継続と充実」に対して「とてもそう思う・そう思う」の回答が84%とどれも8割を超える結果となりました。このことは、相手の気持ちを思いやる子、正しい言葉遣いができる子を育てるために今年度も「言葉遣い」や「挨拶」の取組を工夫してきたためと思われます。また、学校公開時に保護者の方が校門で挨拶をしてくださったことも大きな力となっています。

挨拶については、保護者の方から「南町小の子供たちはあいさつができる点は、非常にすばらしい。これからも継続して取り組んでほしい。」との意見がありました。一方「学校内ではあいさつができる子も、外で会った時に積極的にはできない子もいるようです。」との意見もいただきました。今後は、時や場所、相手に合わせて気持ちよい挨拶ができるように指導して参ります。また、「子供たちの言葉遣い、他人の立場に立って考えることができるよう、教育をもっともっとしてほしいです。」との意見もいただきました。言葉遣いを改めることは、学校だけではできません。日頃の大人の言葉遣いが子供に影響します。保護者の皆様と連携して、進めて参ります。

## <防犯・防災>

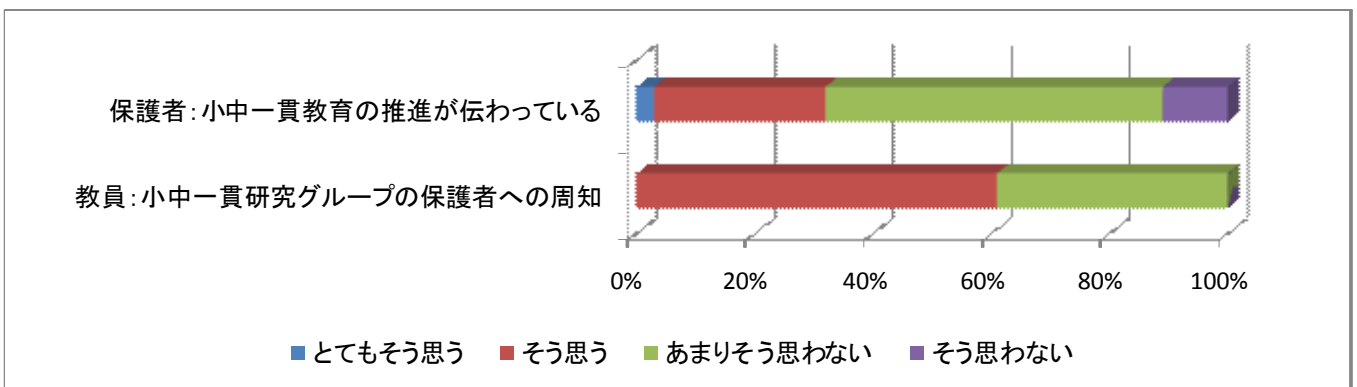


防犯・防災に対しての質問に対して、肯定的に答えた割合は、保護者が90%、教員が95%と高い結果となりました。

防犯については、不審者を学校の敷地に入れないことを第一に考え、「通ったら門を閉める」「東と西の昇降口の扉を閉める」「校内で会った方に声をかける」等を今年度も徹底して行ってきました。その結果、児童が自ら進んで門や昇降口の扉を締める姿が多く見られるようになりました。今年度も保護者の方に安全安心ボランティアの募集をしたところ、30名を越える登録があり、活動していただいたことは、とても心強いことでした。また、PTAの防犯パトロールも確実に行っていただき、感謝いたします。今後も保護者、地域の方々にご協力いただきながら、防犯対策を進めて参ります。

防災については、今年度も校外の開進第二中学校へ避難や防火シャッターの活用など様々な場面を想定した避難訓練を実施しました。保護者の方から「防災対策の一環として、北朝鮮のミサイル発射に対する訓練やお話もしてほしいと思います。」との意見がありました。今後はさらに避難訓練の内容を工夫して実施し、「自分の命は自分で守る」行動を児童自身が実行できるようにしていきます。

## <小中一貫教育の推進>



保護者対象のアンケートで「小中一貫教育の学校の取組がわかりやすく伝わっていますか」という問いに対し、「とてもそう思う・そう思う」と答えた割合は32%でした。また、小中一貫教育を進めている教員も、保護者への周知が十分という回答が61%という結果でした。

南町小学校は、向山小学校と共に開進第二中学校グループとして9年間を見通した児童生徒の育成に向け、「人権教育カリキュラムの作成・実施」・「家庭学習の充実」・「児童生徒交流」の3点を中心に連携を進めています。具体的には、家庭学習状況調査を行い、その実態について共通理解を図ったり、11月のふれあい月間に合わせて開進第二中学校の生徒会役員が全校朝会で「思いやり宣言」の紹介をしたりしました。また、6年対象に部活動体験も行っています。さらに、昨年度から開進第二中学校の「思いやり宣言」をもとに南町小学校独自の「思いやり宣言」を代表委員会で作成し、全校に周知しました。保護者の方からは「小中一貫教育への取組がよく見えないので、説明機会を増やす。資料を配布する。取組の場でのアピール、低学年の保護者にも説明するなど、もう少し発信していただくと理解が深まると思います。」とのご意見をいただきました。今後は、実践した内容について、ホームページや学校だより、校内掲示等にて積極的にお知らせしていきます。

## 学校評議員の方から

保護者や児童、教員が行った学校評価の結果について、学校評議員会を開き、委員の方からご意見をいただきました。

### ○学習・読書活動について……

「授業において、ねらいを子供たちに明確に伝えて、振り返りをするのはよい。分かりやすい授業にもなる。」「図書室の環境がよくなってきている。子供たちが、本を読まなくなっているのだから、本が読みやすくなる環境が整ってきているのはよい。」との意見がありました。今後も、全教員が統一した授業改善のポイントをもとに継続して指導を行い、児童の確かな学力の育成に力を入れていきます。また、図書室の環境整備に力を入れると共に児童が読書に親しむことができる活動をさらに工夫し、「本を読むのが好き。」と答える児童の割合を伸ばしていきたいと考えます。

### ○体力について……

「体力向上には、運動をする機会を増やす必要がある。そのためにはカードの活用はよい。」「児童はレクゲームが好きなので、休み時間にレクを行ったらどうか。」「持久走については、好きと嫌いが二分されるので、嫌いにならないような配慮も大切ではないか。」「放課後や休日に遊ぶ場所が少ない。」との意見がありました。体育授業を充実させることはもちろんですが、休み時間に積極的にクラス遊びを取り入れ内容を工夫したり、なわとび週間や持久走週間において児童が意欲的に参加できる手だてを考えたりして、全校児童が運動に親しむ環境作りに力を入れていきます。さらに放課後、休日に校庭開放の利用を勧めるなど、運動する機会を増やしていきます。

また、児童アンケートの結果で、3年生以上の半数を超える児童が10時以降に寝ていることを受けて、「寝る時刻が遅いのは、家庭環境もある。保護者としても、早く寝ることができる環境を作る必要があると思う。」「しっかり睡眠時間を取ることで、朝ご飯を食べることをしっかり行わせてほしい。」との意見がありました。「早起き・早寝・朝ご飯」は、児童にとって元気の源です。家庭と連携を図り、規則正しい生活習慣を確立していきます。

### ○豊かな心の育成について……

「言葉遣いについては、他の項目に比べて劣っている。家庭の影響もあり、大人が悪い言葉遣いをしている場面も見受けられる。地域のスポーツチームの監督やコーチとの接点がないので、共有できる場を作り、連携していけるとよい。」「挨拶、言葉遣いについては、地域の活動でも言葉を選んで叱るようにしている。これからもしっかりと教えていきたい。」との意見がありました。相手を大切にする気持ちと言葉遣いは、よい人間関係を作る基本となります。保護者、地域との連携を強め、気持ちのよい言葉遣いができる児童を育てていきます。

### ○防犯・防災について……

「子供が門を閉めている姿をよく見かける。大人もしっかり行わなくてはいけない。」「休日など西門前に車の出入りがあるのが気になる。駐車証を発行するなど開放時の車の管理体制を見直す必要がある。」との意見がありました。「通ったら門を閉める」ことを日常的に児童に指導してきた成果と考えます。今後も「自分の命は自分で守る。」指導を続けていきます。また、校地内への車の出入り、駐車については、管理体制の見直しを行い、児童の安全確保に努めていきます。さらに、「自転車事故が心配である。自転車の乗り方の指導を徹底してほしい。」「Jアラート対応の避難訓練を是非行ってほしい。」との意見もありました。本校では、4年生対象に交通安全教室を実施し、自転車の乗り方について実地訓練を行っています。この活動を日常生活に確実につなげていくと共に、各月や長期休業日前の安全指導を通して継続して指導を行い、自転車利用のルール遵守とマナーの向上を目指します。また、様々な場面を想定して避難訓練の内容をさらに工夫していきます。

### ○小中一貫教育について……

「何のために取り組んでいるのか目的が伝わっていないので、しっかり伝える必要がある。また、その結果も見えるとよい。」「どういう取組が小中一貫教育につながっているのかがわかりにくい。この点をアピールするとよい。」「開進第二中学校の学習発表会に参加するのもよいのでは。」との意見がありました。練馬区の小中一貫教育では、①授業改善による学力・体力の向上②連携指導による豊かな人間性・社会性の育成、③滑らかな接続による安定した学校生活を目指しています。今後は、ホームページや学校だより、校内掲示等にて具体的な取組とその成果をお知らせします。